

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立吹上幼稚園長
伊藤 知穂美

令和4年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点(主題)	心を動かして生き生きと生活する幼児の育成 ～気付く、見付けるって面白い 考えるって楽しい～	I
------------------	--	---

1 実践のねらい

今年度は、幼児が遊びの中で思考を巡らし、心を動かしながら豊かな体験を重ねていく中での、幼児の育ちや学びの連続性について捉えていった。また、昨年度に引き続き、幼児が遊びの中で気付いたり見付けたりしたことを自分なりに確かめたり、友達と共有して楽しんだりする手段の一つとしてICT機器を取り入れ実践していった。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ① 幼児が気付いたり発見したりした場面、試したり考えたりして思考を深めている場面を捉え、その時の姿や思いを記録する。
- ② 幼児が試したり考えたりして思考を深めていくための教師の関わり方や大切な環境の構成をもとに、次の手立てをICT機器を含めて考え実践する。
- ③ 幼児の育ちや学びの連続性を捉える。

3 実践の内容

実践よりわかったこと

3歳児は、自由な発想でいろいろな見立てを楽しんでいる。つもりの世界をたくさん楽しめるように教師もその子のつもりに寄り添って遊びを楽しむことが大切である。また、見聞きしたことを元に、心を動かし、身近な材料で、自分なりに思いをもって表現しようとする。そこで、何にでも見立てられる材料が必要となる。

4歳児は、自分の好きなものを身近な材料で表現し、それを使って遊ぶ姿がある。教師は、幼児の表現や考えを受け止め、幼児と一緒にイメージを絵に描いてみたり言葉にして伝えたりして、幼児のイメージが具体化されていくようにすることも大切である。表現や考えを受け止めてもらうことで幼児は考える楽しさ、イメージを膨らます楽しさを感じ自分で生み出すことに喜びを感じるようになる。

5歳児は、興味関心が深まり、より細部まで捉えたり、本物らしく表現したりするようになる。本物らしく作りたいという思いから、今までの経験や知識を思い起こし、よりイメージに近いものを選ぶなど、思考を巡らせる。また、友達とも互いにアイデアを出し合いながら遊びを進めていく。教師は、幼児が工夫したり考えたりする楽しさを感じられるように、幼児の思いの実現のための手立てを一緒に考え、身近にたくさん手掛けられる材料を用意し、幼児自らが実現していけるように手助けすることが大切である。

4 成果と課題

年齢を経るごとに興味関心が深まり、より細部を捉える目が養われていく様子が見られた。さらに、教師や年齢が上の子からの刺激を受けて真似る姿から、自分で考え何かを生み出そうと試行錯誤する姿へと変わっていく様子を捉えることができた。特に、年齢が上がるにつれて、友達の存在が大きくなり、友達の意見や認めが幼児の意欲にとっても大切なことが分かった。

保護者アンケートでは「幼稚園は、子どもの興味や関心、思いを大切にしたい保育をしている」という項目が高くなり「遊びを通して学ぶ機会を作っていただけてうれしい」「子どもの発達状況、成長してる点などに細やかに理解をもって対応していただき、子どもが伸び伸びと過ごしていて親としてもそれが心の支えとなっている」などの意見があり、幼稚園の教育に対しての理解の深まりを感じる。自己評価結果においても、同様に「一人一人の思いに応じた丁寧な援助をしている」という項目が高くなっている。また、学校関係者評価においても「幼児が自身の感じたことや考えていることを言葉や形にすることで伝わる喜びを味わっている様子が目に浮かぶ。教師や友達との信頼関係を築きながら社会性や自主性を育むことができる園は人生の土台作りにふさわしい場所」などと高評価を得た。

5 来年度に向けて

今後も教師が互いに情報を交換しながらそれぞれの育ちを振り返り、3、4、5歳児の育ちや学びの連続性を捉えていきたい。そして、共通体験ができる機会や互いに刺激を受け合える機会を作るなど各年齢に応じた関わりを考えていきたい。また、保護者へのドキュメンテーションの配信などから、教師の願いと共に幼児の姿を伝える機会を増やし、幼児の育ちを保護者と連携して支えていきたい。